

事例 20 地域振興のための国有林野の活用

(関東森林管理局 茨城森林管理署)



- 茨城県東茨城郡城里町 御前山国有林
- (左)あすまやが整備された眺望の良い鐘つき堂跡(令和7(2025)年8月)
- (右)貸付区域を確定させるための現地調査(令和7(2025)年1月)

国有林野事業では、地域振興に貢献するため、地方自治体や地域住民等のニーズを踏まえ、国有林野の貸付けや使用許可等を行っています。

茨城県内の国有林約4万5千haを管理経営している茨城森林管理署管内には、アクセスの良い低山が分布していることから、多くの入山者が訪れます。同署は、白鳥やホタルが見られる笠間市の北山公園や、吊り橋からの新緑や紅葉の眺めで人気の高萩市の花貫溪谷^{はなぬきけいこく}一帯の森林などを、遊歩道やキャンプ場等の用地として地元自治体に貸し付け、ハイキングや観光などに活用しています。

令和7(2025)年度は、茨城県城里町から、御前山登山口付近にある道の駅のリニューアルに合わせて、登山ルートを整備したいとの意向を受け、登山道敷地等として国有林野約4千m²の貸付契約等を行いました。同町では、登山道や休憩小屋(鐘つき堂跡)の刈払いなど、来訪者が安全に登山を楽しむための環境整備が進められています。

同署では、引き続き、地域産業への振興に資する国有林野の活用に向け、積極的に取り組んでいくこととしています。